

た。

以上のことから、ナガイモ病原性糸状菌に対する拮抗菌はナガイモ表皮から、*F. oxysporum* または *F. solani* のいずれかの細胞壁を用いて検索するのが効率的であると考えられる。

糸状菌に対する拮抗菌を探索するとき、寒天平板上で対峙培養を行ない、糸状菌生育を阻止する能力を持つ菌を探索する方法があるが、今回、高い細胞壁溶解活性を示した菌がかならずしも強い阻止能力を示さなかった。これについてはさらに検討が必要である。

CWP 寒天培地による生菌数

	総菌数	細胞壁溶解菌数	溶解菌数割合 (%)
<i>F. oxysporum</i> 細胞壁			
上部 (0~15 cm)	7. 2 × 10 ³	2. 4 × 10 ³	33. 3
中部 (15~30 cm)	4. 1 × 10 ³	0. 4 × 10 ³	9. 8
下部 (30~45 cm)	4. 2 × 10 ³	0. 2 × 10 ³	4. 8
<i>F. solani</i> 細胞壁			
上部 (0~15 cm)	8. 6 × 10 ³	3. 0 × 10 ³	34. 9
中部 (15~30 cm)	5. 1 × 10 ³	1. 3 × 10 ³	25. 5
下部 (30~45 cm)	2. 9 × 10 ³	0. 4 × 10 ³	13. 8

数値は表皮 1 cm² 当たりの菌数。

CWP 寒天培地は 0.15 % 細胞壁懸濁ペプトン寒天培地

CWP 寒天培地による生菌数

	総菌数	細胞壁溶解菌数	溶解菌数割合 (%)
<i>F. oxysporum</i> 細胞壁			
根面 I	2. 9 × 10 ³	0. 7 × 10 ³	24. 1
根面 II	8. 4 × 10 ³	0. 5 × 10 ³	6. 1
根面 III	4. 7 × 10 ³	1. 8 × 10 ³	38. 3
<i>F. solani</i> 細胞壁			
根面 I	3. 6 × 10 ³	0. 9 × 10 ³	25. 0
根面 II	6. 6 × 10 ³	1. 8 × 10 ³	27. 3
根面 III	6. 4 × 10 ³	2. 7 × 10 ³	42. 2

数値は表皮 1 cm² 当たりの菌数。